

# 古代アメリカ学会 第15回西日本部会研究懇談会



## 『クロニカの解読とアステカ王国史』

井上幸孝（専修大学）

参加費無料、  
非会員の方も  
参加できます。

日時：4月6日 土曜日 13：30～16：00

会場：関西外国語大学ICCホール

(インターナショナル・コミュニケーション・センター4階6411教室)

### プログラム

- 13：30 開場
- 14：00 趣旨説明と挨拶
- 14：15 発表
- 15：15 質疑応答
- 15：45 閉会挨拶
- 16：00 終了

### 会場アクセス



〔主催〕

古代アメリカ学会 <https://americaantigua.org>

〔お問い合わせ〕

西日本部会幹事：土井正樹 ([huarpa\\*kansaigaidai.ac.jp](mailto:huarpa*kansaigaidai.ac.jp))

古代アメリカ学会事務局 ([info\\*americaantigua.org](mailto:info*americaantigua.org))

(アドレスの\*を@に換えてください)

〔会場〕

関西外国語大学ICCホール

# 『クロニカの解読とアステカ王国史』

井上幸孝（専修大学国際コミュニケーション学部）

本発表では、アステカ王国史に関するクロニカ（記録文書）について整理するとともに、現在進めているテソソモク（Hernando de Alvarado Tezozómoc）のクロニカ解読の一端を紹介する。

アステカ王国期の歴史を再構築する上で、スペイン征服後の文書資料、とりわけクロニカに記された情報は欠かせない。しかしながら、その情報の偏りについて意識する必要がある。20世紀半ばから現在までの研究動向を見ると、①先住民クロニカの再評価、②ナワトル語の史料解読の進展、③メシーカ人のみに捉われない多様な視点の三点が顕著である。

このことを踏まえたうえで、テソソモクの『クロニカ・メヒカーナ』と『クロニカ・メシカヨトル』の記述内容を考察する。彼のクロニカの解読からは、①他の多くのクロニカには見られないテノチティトラン正史の伝統を受け継ぐ詳細な情報が含まれていること、②それと同時に、スペイン征服後の世界に生きるメシーカ貴族層の立場を如実に反映する記述が見られること、という二点が浮き彫りになる。